

そんな毎日を過ごしてきた経験から、今、子どもたちが笑顔でいることの幸せが身に染みます。幸せは、じつは気がつかないほど近くにあるものです。

まず、私の考えが180度変わったのは、一人目の子育てからでした。それは、初めて親になった私にとって「喜び」と同時にやってくる苦労の始まりでした。

学校に行けなくなった我が子に何をしてあげればいいのかわからず、途方に暮れていたあの頃。これまでの自分の人生で得てきたことが、子どもたちの生き方には全く当てはまらず、親の人生経験なんて何ひとつ役に立たないことをその時、痛切に思い知らされました。生きてきた時代が違うのです。恥ずかしながら、そこに気がつくまで随分と遠回りをしました。

この事実気づいてからは、これまでの自分の経験、価値観をすべて捨て、子どもなりの「今の時代に合った自分らしい生き方」をどう導いてあげられるのかをずっと考え続けていました。

私は、ただただ、我が子の笑顔を再び見たかっただけなのです。そのための第一歩は、親が自分の持っている固定観念を捨てることから始まりました。

子育てのアンラーニング<sup>\*注</sup>です。